



かんぼの宿鳥羽で11月21日、市青少年育成市民会議が主催する「親子凧作り教室」が開かれ、市内の親子39人が、凧作りに挑戦しました。

こどもたちは、講師の西川正之さんに作り方を教わりながら、保護者のかたと協力して和紙に思い思いの絵を描き、骨や糸を付けてダイヤ型と六角の凧を完成させました。

1月3日に開かれる新春凧あげ大会では、こどもたち手作りの色とりどりの凧が、空高く揚がることでしょう。

揚がるといいな！手作り凧



12月6日、みえの防災風土を持続性のあるものとして広げていくために、防災に関するさまざまな団体などが交流する「みえの防災風土づくりシンポジウム」が、市民文化会館で開催されました。

このシンポジウムには約700人が参加し、冒頭に「みえの防災大賞」の表彰が行われました。これは三重県が自主防災活動が顕著な団体に対して毎年行っているもので、今年度は、市内の市民グループ「子育て応援!!0・1・2・3サークル」が大賞に輝きました。

このほか、講演や演劇も行われ、参加者のみなさんは防災について学びました。

「みえの防災大賞」に子育て応援!!0・1・2・3サークル

まちの話題 18号



11月21日から29日まで、旧鳥羽小学校校舎で「九鬼嘉隆・水軍展」が開催されました。織田・豊臣水軍の将として活躍し、鳥羽城を築いた九鬼嘉隆を広く知ってもらおうと鳥羽元気再生事業推進協議会が企画したもので、嘉隆像をはじめ、嘉隆が建造した日本丸の模型や図面、鳥羽城絵図など20点が展示されました。

会場を訪れたみなさんは、資料や年譜で足跡をたどりながら、嘉隆の活躍に思いをめぐらせていました。

戦国武将・九鬼嘉隆の活躍を紹介



県生涯学習センター主催の「ほんものとの出会い教室」が12月2日、弘道小学校で行われ、5・6年生がプロのダンサーから本物のダンスを学びました。

教室では、講師のプロダンサー北村成美さんの全身を使った動きをまねたり、2人1組になって手をつなぎ、相手の動きに合わせた創作ダンスに挑戦しました。

児童たちは、「息を合わせるには、相手をめっちゃ見て、めっちゃ聞くことが大事」という北村さんの言葉にうなずきながら、一緒に動くことの難しさと楽しさを実感していました。

本物のダンスを体験！